

LIFE TIMES

三菱ケミカル物流株式会社
<http://www.mclc.co.jp/>



平成29年9月1日（金）発行 【隔月（年6回）発行】

発行部署 : ソリューション営業第2本部ソリューション開発部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4600
発行責任者 : 白土 雄二郎
お問合せ窓口 : 石山 義裕

第131号

[目次]

1. 四日市ケミカルステーション株式会社設立
2. 船舶バラスト水規制管理条約発効
3. 連結トラック輸送・中継輸送について
4. 標準貨物自動車運送約款等の改正について
5. MCLC場所紹介 ～上越営業所～
6. JILSセミナー 参加レポート
7. 第1回AI・人工知能EXPO 参加レポート



1. 四日市ケミカルステーション株式会社設立

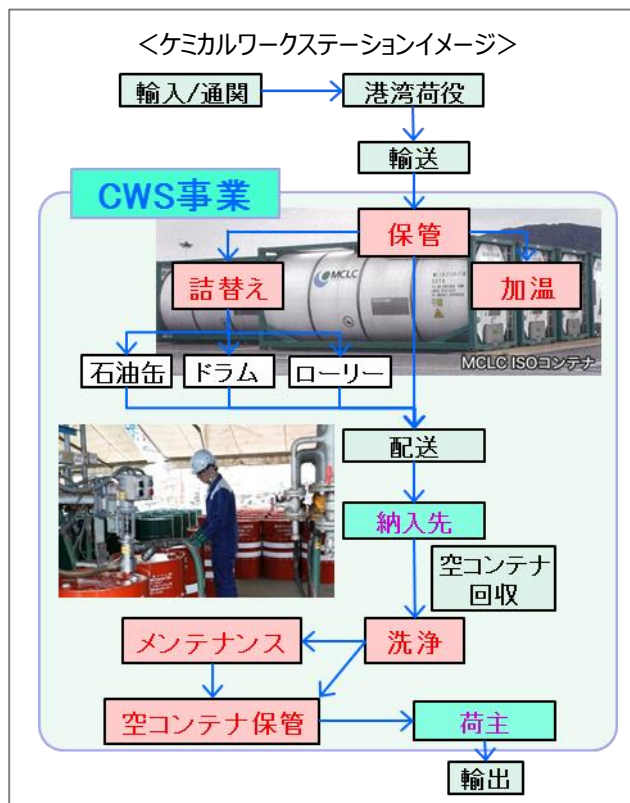
近年の化学業界では合理化、生産性向上、環境対応を目指し、業界再編による生産拠点の統廃合、製品の高機能化、原料調達グローバル化など様々な変化が生じており、化学品の輸出入の増加、輸送容器の最適化、JR輸送、往復輸送等エコ物流の推進など様々な方策が実施されています。

このような背景を踏まえ、当社は去る7月3日、日本トランスシティ株式会社と三重県四日市市にケミカルワークステーション（以下「CWS」）事業を目的とする合弁会社、四日市ケミカルステーション株式会社を設立しました。

CWS事業とは、化学品物流の利便性を高めるために一連の作業を系統的に運営するもので、具体的には化学品の保管、納入及びその付帯作業、容器の洗浄・メンテナンス等の作業等が挙げられます。

なお、具体的な業務内容については、内外の状況を慎重に見極めながら、他社との提携も含めて検討して参ります。

保管、詰替え、加温などをパッケージで考える事による製品品質に最も影響を与えない形での物流の効率的なご提案や、両出資会社が行っている港湾業務や陸上輸送業務との組み合わせによる更に合理的なアイデアのご提案を通じてお客様の負託にお応えしていく所存です。



2. 船舶バラスト水規制管理条約発効

2004年にIMO（国際海事機関）で採択された「船舶バラスト水規制管理条約*1」が本年9月8日に発効することとなりました。同条約はバラスト水に含まれる生物が、本来の生息地ではない海域に移入・繁殖することによる海洋環境悪化を防止するため、船舶に対してバラスト水の適切な管理を求めるものです。

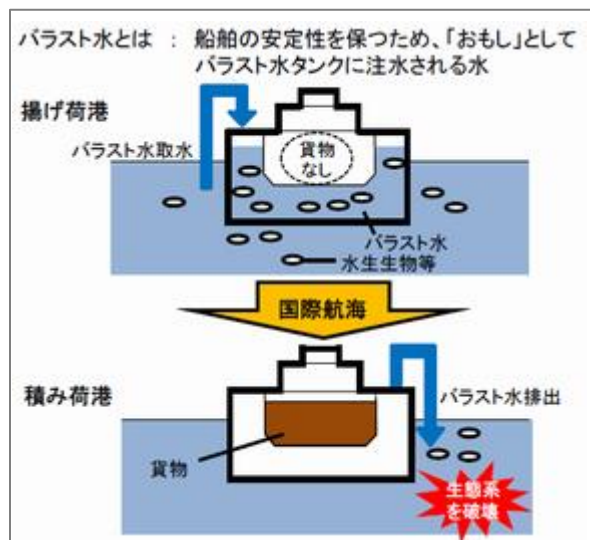
*1:INTERNATIONAL CONVENTION FOR THE CONTROL AND MANAGEMENT OF SHIPS' BALLAST WATER AND SEDIMENTS, 2004

【条約の主な内容】

- 1.基準値を超えるバラスト水の排出禁止
(処理装置の設置等が必要) *2
- 2.船舶毎のバラスト水管理計画作成・実施,
バラスト水記録簿の常備
- 3.【旗国】船舶の定期的検査, 国際証書の発給
- 4.【寄港国】国際証書・記録簿確認, バラスト水分析,
違反船舶は抑留等が可能

*2:条約発効日以降に運航開始する新造船は即時、既存船は条約発効後の国際油汚染防止 (IOPP) 証書の更新検査までにバラスト水処理設備の設置を義務付け

既存船へのバラスト水処理設備の設置期限については、本稿執筆時点でもIMOの審議が継続中で流動的な部分もありますが、本条約の発効を機に、批准国拡大等を含め海洋環境保護の更なる進展が期待されます。



(出典/国交省発表資料より)

3. 連結トラック輸送・中継輸送について

トラックドライバー人材不足の解決を目指して2016年11月に開始された実験について、国土交通省より結果が発表されました。

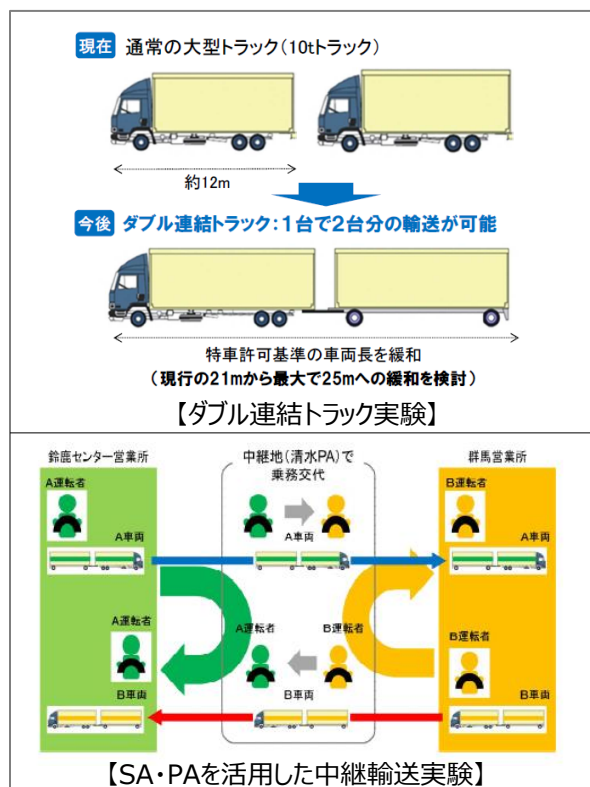
実験は、荷台の後ろにもう1つ荷台を連結させ、トラック1台で2台分の輸送を可能にさせる「ダブル連結トラック実験」と、新東名高速道路のパーキングにおいて、上りと下りのドライバーを交替させる「SA・PAを活用した中継輸送実験」の2つです。

【実験結果】

- 1) ダブル連結トラック実験
→ 必要なドライバー数 約5割削減
- 2) SA・PAを活用した中継輸送実験
・高速道路上での乗り継ぎによる効率化
→ 輸送時間 約30分短縮
・中継輸送による自宅休息時間の増加
→ 約3割増加 (90時間/月)

(出典/国交省発表資料より)

当社においても、上記実験と一部異なる部分はありますが、中継輸送に関する同様の計画を取り進め、ドライバーの負担軽減等に繋げる活動に取り組んでいます。



(出典/国交省発表資料より)

4. 標準貨物自動車運送約款等の改正について

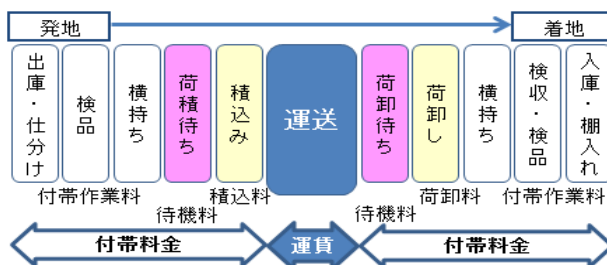
貨物自動車運送事業の安全確保は極めて重要な課題であり、国土交通省においては2016年7月よりトラック運送業の適正運賃・料金収受に向けた方策について検討がなされてきました。今年5月に公示された“倉庫等での積卸しに要した作業時間・待機時間の乗務記録”の運送会社等に対する義務付けに続いて、8月4日に標準貨物自動車運送約款等の改正について告示がありました。（施行は11月4日）

この改正は、荷主等と協働の下、運送に必要な事項を具体的に書面化することで、運行の安全を阻害しかねない「輸送条件が明確でない運送の引き受け」や「運送直前、もしくは開始以降の運送条件の変更」を防止する趣旨です。また、運送に対する対価としての「運賃」と運送以外の役務等に対する対価としての「料金」とを書面に記載し、これらを適正に収受する環境整備を行うことも目的としていて、これを実施することで個々の運送毎に適切な条件が設定され、トラック運送における安全運行の徹底と過労運転等の防止を図る事をねらいとしています。

具体的には ①運送状(※)の記載事項として「積込料」「取卸料」「待機時間料」等の料金の具体例を規定、②料金として積み込み又は取卸しに対する対価を「積込料」「取卸料」とし、荷待ちに対する対価を「待機時間料」と規定、③附帯業務の内容として「横持ち」「棚入れ」等を規定しています。

今後、このような規定を明確に書面に記載し適正な取引の確保に努めることが求められます。

※運送状：運送に必要な事項を書面化したもの



5. MCLC場所紹介 ～上越営業所～

当営業所は1962年に三菱化成工業(株)(現：三菱ケミカル(株))直江津工場の起工を受け開設されました。現在は工業団地名称である『上越テクノセンター』に籍を置き、所員9名で三菱ケミカル社を軸に構内の工場からの配送手配や外部倉庫の管理、包装資材の代理購買等を行っております。

上越市は日本海に面しておりその地理的優位性を活かし、直江津港では韓国・中国・ロシア等と貿易が行われております。近年ではLNG(液化天然ガス)の拠点港に指定され、エネルギー港湾としての一面も加わり発展を続けています。

さて、当地は戦国武将上杉謙信が春日山に城を築き統治した所です。上杉謙信は「越後の虎」と恐れられた一方、宿敵の武田信玄が今川氏によって塩を断たれた際に塩を送るなど戦国の世において義を第一に重んじる名将でした。

気候は四季の変化がはっきりしており四季折々の風景を楽しむ事が出来ます。春は高田公園(高田城跡)に4000本の桜が咲き競い、特に3000個のぼんぼりに照らされお堀の水面に映る夜桜は優美で日本三大夜桜の1つに数えられ、ライトアップされた三重櫓とさくらロードは幻想的で訪れた人達を魅了しています。更に、夏には外堀を埋め尽くすハスが咲き誇り、美しさ、規模共に東洋一とうたわれています。

近年は暖冬でさほど雪は降りませんが、以前は豪雪地帯として知られ、1911年、オーストリア人のレルヒ少佐により日本で初めて金谷山でスキー術が伝えられました。その功績を称え、2月には『レルヒ祭』が行われ、当時の一本杖スキーも披露されます。又、ご当地キャラ『レルヒさん』のグッズも多数販売されております。



6. JILSセミナー 参加レポート

7月7日に日本ロジスティクスシステム協会（以下「JILS」）が主催するセミナーに参加しました。今回のテーマは、JILSが荷主企業を対象に毎年実施している「物流コスト調査」の結果および考察で、直近の荷主動向を把握できる有意義な内容でした。

調査に回答した荷主全体では、2016年度の売上高物流コスト比率は4.97%で、意外にも3年ぶりに上昇へ転じ（対前年度+0.34ポイント）、過去20年で最大の上昇幅とのことでした。回答荷主の多くが前年度において輸送費の値上げ要請に応じたと回答しており、そうした動きを反映した結果と言えそうです。

また、今後実施予定の物流コスト削減策として、物流拠点の見直しや在庫削減、積載率の向上といった取組みは従来から変わらず上位を占めたものの、「輸配送の共同化」が上位削減策に続いて多くの回答があったとのことでした。昨今の車両確保難への対応として、各荷主企業が他社との共同物流へ取り組む動きが加速していると感じました。

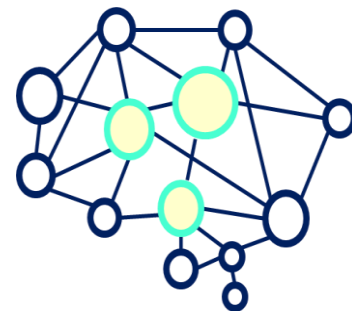
当社としましても、各荷主企業への効率化提案を継続していくとともに、当社が提供するサービスに関して物流子会社を含む同業他社との輸配送や物流拠点の共同化へ積極的に取組み、環境変化に対応して参ります。

7. 第1回AI・人工知能EXPO 参加レポート

6月28日～30日までの3日間、東京ビックサイトにおいて「第1回 AI・人工知能EXPO」が開催されました。当展示会では、AI導入支援サービス、ディープラーニングを簡単に扱えるようにしたソフトの展示、AIを活用したロボット等の機器の展示、AI活用のWeb接客まで幅広く展示されていました。また第1回にもかかわらず参加者は来場予測の3倍近い約41,000名を数え、通路や展示ブースは来場者で溢れ初詣並の賑わいとなり関心の高さが窺えました。

多く見受けられたものとして、人間の声を認識し言葉を話すために必要な機能を備えたロボットや、目視で確認していた業務をディープラーニングを活用した画像解析で、業務効率化が可能となるサービス等があり、まるでSF映画にでてくるロボット・サービスを感じさせる内容でした。

第3次AIブームと言われる中、“AI”がいかに重要な要素であるかが感じられる展示会でした。当社としても引き続き最新技術の情報収集を行うとともに、私たちの業務において人と時間をかけて行っているような作業は、より効率よく作業ができるようなツール導入の検討を行い、お客様へのご提案内容の質の向上や検討のスピードアップに繋げていきたいと思えます。



※ AI : artificial intelligence (人工知能)

編集後記

暑さだけではなく、台風に局部的豪雨に雷雨と、自然災害が年々身近になってきた感があります。皆さまにはお変わりございませんか。当社(ビル)でも、「防災ハンドブック」が従業員全員に配布され、災害発生時の対応フローや一時避難場所等がよくわかるようになりました。備えあれば憂いなし！ですね。

4月より「三菱ケミカル物流」として新生スタートし、「会社案内(右図)」もリフレッシュ(作業服もリフレッシュ!)しました。当社ホームページより是非ご覧ください。「FOR THE BEST SOLUTION!」を合言葉に、お客様へ最適なソリューションをご提案できるよう、一同日々精進してまいります。(h)

